The Japan Interior Designers' Association

JID

研究発表会 特集号

no. 72 (付録)

1976. March 17.　　昭和51年3月17日発行

第5回研究発表会

会場　国立教育会館
日時　昭和51年3月17日（水）
10.00〜17.00

● 主旨

今日ほど　デザイナーの資質と行動の内容を問われている時代はあるまい。
日本におけるインテリアデザイナーの唯一の職能団体としての当協会が　会員の平素の「研究」を発表すると同時に「委託研究」および「インテリアデザインの傾向」の二点を以て，今後のインテリアデザイナーのプロフィールを生み出すことを意図して開催するものです。

● プログラム

開会の辞　研修委員長　島崎　信

10.00　委託研究　正会員　白石勝彦……2
「インテリア産業におけるデザイナー像」

Trends of Interior Design

正会員　坂田種男……3
「建築とインテリア」：ヨーロッパ

正会員　わたなべひろこ……3
「ファブリックスとインテリア」：スカンジナビア

正会員　大和保雄……4
「デザイン行政・生活とインテリア」：アメリカ Slide

12.00　休憩

13.00　個人研究　正会員　中村圭介……5
「近代における家具調度の制作技術について」

正会員　箕原　正……8
「シティ・フォア・ジ・エイジド構想」

正会員　中西三郎……9
「商業建築及びインテリア共同住宅他」

正会員　大泉博一郎……10
「中村順平氏のインテリアデザイン業績」　Slide

名誉会員　豊口克平……10
「豊口克平とデザイン界の半世紀展について」8 m/m

16.00　研修会報告　正会員（研修委員長）島崎　信
「インテリアデザイナー・個人と団体の方向」

挨拶　理事長　白石勝彦

司会　島崎　信（午前）　秋山修治（午後）

● インテリア産業におけるデザイナー像

正会員　白石勝彦

1.　インテリア産業の課題

インテリア産業とは，家具・カーペット・カーテン・照明器具・内装材などのインテリア・エレメントの生産・流通・販売・施工に関連する業種の総称である。

本来，インテリアは人間の生活行動を中心にした建築の内部空間の環境そのものであり，そこに配置，設備されるインテリア・エレメントは，機能性，造形性，装飾性，安全性などの面で相互に有機的に関連し，調和したものでなくてはならない。

しかるに，現在のインテリア・エレメントの企画，生産，流通，販売の各部門で，材料別，生産方式別，流通経路別などに業種が分断され，個別な産業活動が行なわれ，いわゆる縦割りの産業構造となっている。

これに対し，インテリアの需要は急速に伸長し，その動向もトータル化，個性化，多様化，高度化などの傾向を示しており，それらの需要に対応した産業構造を持たねばならないのが，現段階におけるインテリア産業の重要な課題である。

2.　デザインの役割

従来の業種別・形態別に分散・個別化していた産業活動を，インテリア関連企業を協同化，組織化することによって，拡大・集約された産業活動にするためには，縦割りの産業構造を横に継ぎ，企画，生産，流通，販売の各部門で相互に協調（コーディネート）する必要がある。

つまり異業種間の協調，異品種の共同企画，共同開発などの具体的な産業活動の中で，デザインおよび商品計画（マーチャンダイジング）のはたす役割は極めて重要である。

3.　デザイナー像

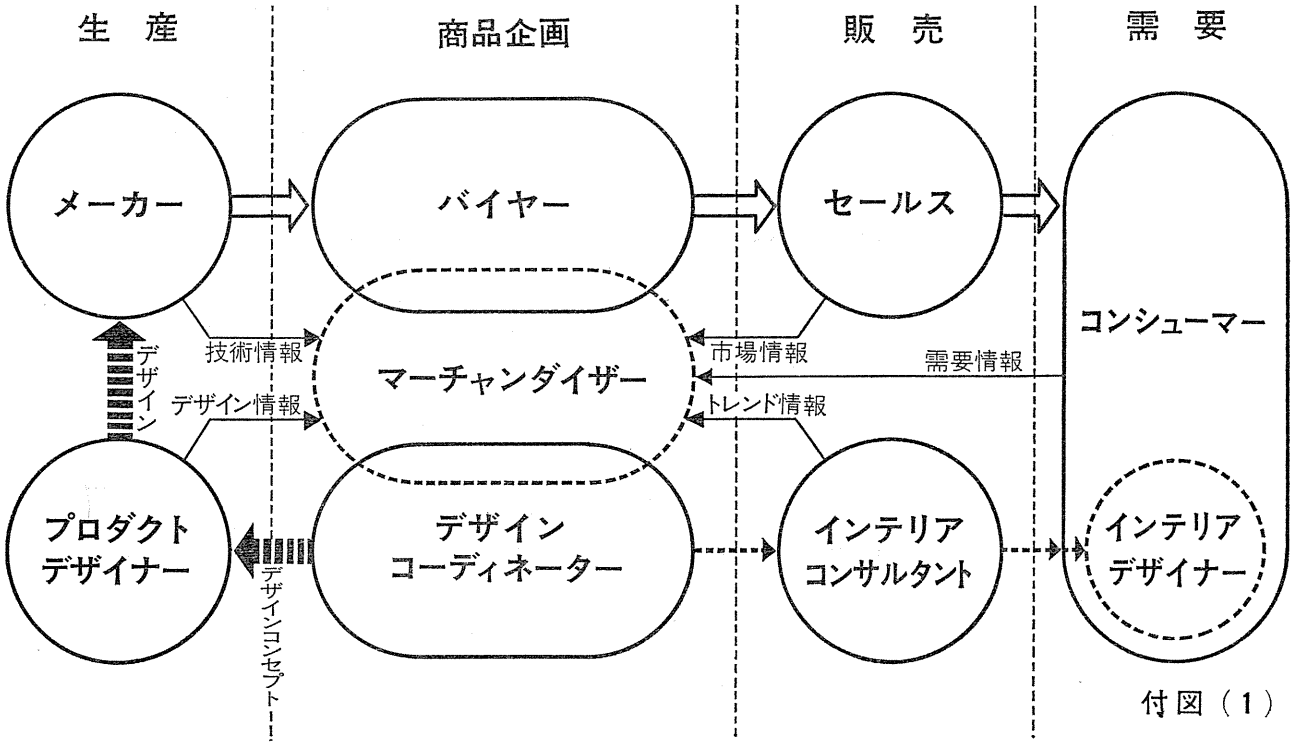
インテリア産業の中で行なわれているデザイン行為を大別すると次のようになる。

(1)　プロダクト・デザイン
生産面で，製品開発を具体的にするデザイン行為でプロダクト・デザイナーが行ない，メーカーとの関係によって成立する職能。

(2)　インテリア・デザイン
需要面で，需要者の求めにより，技術的，造形的に処理しインテリア全般をまとめるデザイン行為でインテリア・デザイナーが行ない，需要者との関係によって成立する職能。

(3)　インテリア・コンサルティング
販売時点で需要者の求めにより，専門的アドバイスを行なうデザイン行為でインテリア・コンサルタントが行ない需要者又は販売者との関係とによって成立する職能。

この他，インテリア・デコレーションという職能もあるが，これはインテ



付図（1）

リア・デザインの職能の発展として考えられる面と，インテリア・コンサルティングの職能の範囲内で行なわれる場合とがあるので，この分類ではその双方に含めて考えている。

4. 新しいデザイナー像

以上が従来のインテリア関連企業の中で行なわれているデザイン行為である。

これに対して，新しい職能としてインテリア・コーディネーティングをあげたい。

(1) インテリア・コーディネーティング

商品計画時点で，需要動向を正確に把握し，解析し，その方向性を予測した上で具体的に商品企画の方針を立てるデザイン行為でインテリア・コーディネーターが行ない，生産者・流通・販売者などとの関係によって成立する職能。

従来の商品計画では，流通・販売など営業部門が主体となって行なわれ，マーチャンダイザーがこの任に当っていたが，これからのインテリア産業では，多品種の商品計画を総合的にトータルで把握せねばならず，インテリアのイメージを考慮した上で商品計画を立てるためには，デザインの総合的，専門的な助言が必ず必要となり，この部門を担当するものとしての職能が生まれてくる。

インテリア・コーディネーションはこれらの部門を受持つ職能として成立することが望ましい。

● 建築とインテリア：ヨーロッパ

正会員　坂田種男

ヨーロッパの建物といつても各地域ともそれぞれ材料も異なり，規格も違い，そこで国際規格などを進めて行こうという考えがあるくらい，それぞれの国には特色がある。無論インターナショナルなコマーシャルビルデングやオフィス，ホテルなどは各国とも似て来たといえるが，住宅についてはまだ各国とも伝統的なものが残されているといって良いであろう。

英国の連続住宅，オランダの焦茶色のレンガに白いオイルペイントの建具，スカンヂナビアのフィンランドパインやぶな材の使用されたインテリア，またデンマークの木材のない国の赤や黄色のレンガのモデューラコーディネィションの適用と，インテリアでの木材の使い方の上手さは既に知られており，ドイツの functional な考え方，イタリアのマーブルを使い方やガラリのブラインドを多く用いた住居，スイスの華麗なアパート，フランスの実験住宅に見られる新しい性能を考えた建物等があるが，これらはすべて日本のものとは性能と品質の違いが見られる。その主なものとして建物精度が良いこと，性能としてインシュレーション効果が良く壁面ばかりでなく窓などのサッシはガラスが二重～四重のものを用いていること，室のルームサイズが保証されていること，電気エネルギーの利用が盛んであること，その他工業化としての進め方の中では部品がオープン化されていることなどかなり良い面が見られる。

インテリアの問題としては照明器具を上手に使う北欧，室内構成材の品質の安定，住宅性能を保証するための水道などユーザー side すなわち末端での水圧の安定，換気システムの合理性，個人の嗜好による interior の演出，カーペットの敷き方，カーテンの吊り方の原則的なものが全体と co-ardinat されている。窓の外に見える風景もインテリアを構成する要素として十分考えているといえる。

● ファブリックスとインテリア：スカンジナビア

正会員　わたなべひろこ

現代に於ける人間生活とデザインのかかわり合いを，繊維という素材や，テキスタイルデザインと呼ばれる職分，又はテキスタイル産業，或いは，教育システム等，多角的な観点から総合考察することによって，ファブリックスとインテリアの相互関係に新たに，一つの問題提起をしたい。

女性とデザインのかかわり合いは，現実の生活に於て，男性以上に密接な相互関係をもっているにもかかわらず，ファッションの分野はともかく，インテリアの分野では未だ，一般的意識は低い。かって主婦を対象とした消費者教育的な運動も幾多行なわれはしたが，その効果は余り期待されずに終っている。

インテリア演出の主核である主婦，

又，子供の育成の場である家庭という環境の指導権をにぎっている女性の立場は，社会的にも主要な意味をもっている。このデザイン意識への反省と方法を，スカンジナビア諸国の生活の現況を観察し分析することによって再考し，社会基盤に於けるデザイン意識育成の一つの手だてとしたいと思う。

● デザイン行政・生活とインテリア：アメリカ

正会員　大和保雄

1.　アメリカのデザイン会議

(1)　設立の経緯

この会議の設立の発端は，1971年5月，ニクソン大統領が，63の政治機関の長官に対し，各機関が“いかに芸術・デザインを活用するか”について報告書の提出を求めたことにはじまる。

各長官達が提出した報告書の内容には，政府の建物，事務所のインテリア，視覚伝達物のデザインの質を改善することに圧倒的な支持が示されていた。

次いで1972年5月16日，ニクソン大統領は，“デザインの改善と向上”についてメッセージを出し，会議設立が具体的となった。そして主催者と会議運営のための運営委員会が設立された。

(2)　主　催

The Federal Council on the Arts and the Humanities が主催者で，選出された政府の各庁代表者120名によって構成。

(3)　運営資金

National Endowment for the Arts
※Department of the Army
※Department of Interior
※Department of State
※General Services Administration
※Smithsonian Institution
※は74年より

(4)　運営委員会

Federal Design Assembly Task Force Members によって推進，この委員会は，政府代表8名，民間5名のデザイン専門家により構成。

第1回目の委員長 J. Carter Brown (Chairman of Commission on Fine Arts Director of the National Gallery of Arts)

第2回目の委員長 Nancy Hanks (Federal Council on the Arts と National Endowment for the Arts の会長)

(5)　会議の目的とテーマ

第1回目の目的

1. 公共施設における効果的なデザインは，それ自身が根本的な公共サービスとなる。
2. デザインは，ぜい沢なものや，装飾品をさすのではない。
3. グッド・デザインは，金と時間を節約するものであり，政府の諸計画の効果を強めるものである。

テーマ

デザインの必要性

第2回目

1. 連邦政府のデシジョン・メーカー達に彼らの Agencies のマネジメントのテクニックとしてのデザインの活用に対する意識を高めさせること。
2. 良いデザインは経済的で，物の効果を高めるものであり，またコミュニケーションをよくすることにも，大変役立つものである。

ということを認識させること。

テーマ

デザインの現実

(6)　わが国との比較

日本……通産省，ならびに各デザイン団体が一般消費者を対策したデザイン振興政策。

アメリカ……政府が特別委員を構成して運営，政府各省および各州知事等，一国の各行政機関を対策にしたデザイン振興政策。

そこで，連邦政府のするデザイン政策は，あらゆるアメリカ市民の生活の向上にも，大変影響がある。またアメリカのデザイン政策の一番大きな，クライエントとして政府は，最高のデザイン，スタンダードを達成する重い責任があるとのべている。

2.　アメリカ人の生活

消費水準

所得の上昇が労働人口の構成の変化や累進課税制度と相まって，米国における中産階級の拡大をもたらし，自分自身の家などを自由に所有することのできる階層を増大させている。第2次大戦後の所得水準の上昇は，大多数の世帯に，生活必需品を買うほかに，比較的自由に使うことのできる所得をもたらすこととなった。

この所得水準の上昇からくる購買力の上昇，さまざまな形で行なわれる資産の蓄積の増大および消費者信用の普及の3つの要因は，所得をいつ何に使うかという問題に関し，より大幅な選択力を消費者に与えている。

被服費，住居費は，飲食費に次いで大きな項目である。

（表―1，表―2参照）

さて，以上のような所得をもっている米国民は，石油危機以来失業者続出し，1975年末には，8.6%，1976年の3月末には，9.6%に達すると云われている。こういう中で，一般の中流階級の人々は，どのように，日常生活の態度を変えてきたのか……。ニューヨーク

のマンハッタン地区のアパートの傾向について考察してみると，従来はよく，中流家庭では，都心と郊外に2つの住宅をもってきたが，これが経済的に非常に困難となり，郊外の住宅を節約し，マンハッタン地区のアパート一カ所に住宅をしぼる人が多くなってきた。そこでN.Y.のマンハッタン地区のアパートが特に最近，改築されたり，市街地，再開発で新しいアパートが建設されている。これらのアパートには特殊な設備が多くもち込まれている。例えばプール，サウナ付，子供の広場，学校，公共の娯楽室，ショッピング・センター等，マンハッタンの中の住宅で，従来，郊外の住宅で行なわれていた週末のレジャーを併用しようというこころみからだと思われる。

またこの住宅の建物は，従来の長屋の高層化ではなく，広い敷地内に床面積の小さい，1F，かせいぜい10～12世帯ぐらいの約33階建で，敷地の周囲に塀をめぐらしている。これは近年N.Y.は特に治安が悪くなったため，建物および住民のガードにも大変便利で，必然的なものでもあろう。その中に前述の設備が収納されている。また各部屋とも太陽光線が十分に入るように設計されている。

わが国との比較

日本……経済的優先の長屋形式の高層住宅が多くみられる。

アメリカ……最近の高層住宅を見るとちょうど日本の江戸時代の武家家敷を共同体にしたような建物で，一つの敷地内に母屋（住居）あり，離れ（レジャー施設）あり，その周りに塀をめぐらすという考え方の……。

これは，一つの建物に対し広場を大きくとることの出来る利点，また治安の悪いN.Y.で住宅管理を最高に実施するための利点等と考えられるが……。

わが国の高層住宅も今一度再検討する時期がきていると思われる。

表—1　消費水準

単位10億ドル

	1950年	1955年	1960年	1965年	1969年	1970年	1971年	1972年	1973年
飲食費	58.1	72.2	87.5	107.2	130.7	141.2	147.7	156.4	178.7
被服費	23.7	28.0	33.0	43.3	59.9	62.8	67.2	73.6	81.3
家財・家具費	29.5	37.3	46.9	61.8	82.3	87.4	93.8	105.1	117.5
住居費	21.3	33.7	46.2	63.5	84.1	90.9	99.1	107.9	116.4
医療費	8.8	12.8	19.1	28.1	42.8	47.4	51.8	57.2	62.7
娯楽費	11.1	14.1	18.3	26.3	36.9	40.7	43.0	48.1	52.3
教育費	2.3	3.3	4.7	6.0	8.1	8.6	9.2	10.1	10.8

表—2　国民所得

	$1,000以下	$1,000～$1,999	$2,000～$2,999	$3,000～$3,999	$4,000～$4,999	$5,000～$5,999	$6,000～$6,999	$7,000～$9,999	$10,000～$14,999	$15,000～$24,999	$25,000以上	平均	1950年を100とした上昇率
1950年	11.5%	13.2%	17.8%	20.7%	13.6%	9.0%	5.2%	5.8%	%	3.3%	%	$3,349	100
1955	7.7	9.9	11.0	14.6	15.4	12.7	9.5	12.9	4.8	1.4		4,421	133
1960	5.0	8.0	8.7	9.8	10.5	12.9	10.8	20.0	10.6	3.7		5,629	160
1965	2.9	6.0	7.2	7.7	7.9	9.3	9.5	24.2	17.7	7.6		6,957	210
1970	1.6	3.0	4.3	5.1	5.3	5.8	6.0	19.9	26.8	22.3		9,867	297
1971	1.5	2.6	4.2	4.8	5.4	5.7	5.5	18.5	26.9	19.5	5.3	10,285	310
1972	1.3	2.2	3.7	4.5	4.9	5.0	5.2	16.8	26.1	23.0	7.3	11,116	335
1973	1.1	1.8	3.1	4.1	4.5	4.6	4.8	14.9	25.5	26.2	9.3	12,651	363
1974	1.3	1.3	2.7	3.6	4.1	4.4	4.4	13.8	24.3	28.3	11.5	12,836	387

● 近代における家具調度の制作技術について　——明治前期の家具建具産業——

正会員　中村圭介

家具産業の発達史を考察するにあたって，近世から近代への過渡期である。明治前期の状況を知ることは大切である。以下は勧業寮編「明治7年府県物産表」（3府60県）による調査の中間報告で，関連資料の調査によって完全を期したいと思う。

(1)　木材の産出

建築用材などの挽立材は別表(1)の10県で全国産額の半額に近い。

いづれも消費地と河川または海路の便が良い地点であり，名栗川・高麗川などを下る西川材などの出荷が盛んであったことを示す反面で，戦前の木材産地長野・飛弾は中位，秋田は下位にある。

(2)　建具

出職と居職の中間にある建具は別表

(2)のようで，上位10県で68％の生産高になる。これらのうち，東京・大阪・京都の3府は消費地形で吊込料を含むためか一本40銭位であるのに対し，加茂（新潟），田鶴浜（石川），都幾川（熊谷）などの出荷地では20銭代が多い。これらのうち，新潟・石川・福井（敦賀）・広島の各県産品は西廻り千石船で沿岸各地へ，また熊谷県は川船で東京に送られた。

すでに問屋制手工業生産の段階で既製品化が始まる一方，東北・山陰・九州の各県でも年産5,000本程度の地場産業として，受注生産をしている。

(3) 和家具

和家具は別表(3)のようで，漆器・指物の部に含まれる。箪笥・長持・鏡台・針箱・戸棚・机卓飯台類の合計年産額が1万円を超す11府県で全産額の65％をしめており，問屋制手工業製品として標準化され，商品化している。

このうち，東京・京都・愛知・大阪（鏡台産地も兼ねる）の四大消費都市と広島・熊谷は各品種を平均に生産しているが，静岡は梨地蒔絵小箪笥が，全生産額の56％をしめている。これは維新で失職した蒔絵師の救済と起立工商会社による輸出商品であろう。

また，鏡台・針箱類の生産数は全国生産数の35％を占め，大阪の25％と合わせ60％になる。

埼玉（岩槻・春日部）は桐箪笥が主で，熊谷（川越）とともに東京に陸送した。新潟（加茂）敦賀の箪笥類は，降雪期に多く生産され，千石船で小樽に送るなど日本海沿岸と関西を，福岡県三潴郡(大川)は九州一円をそれぞれ市場にしたようである。また飯台の多いのは小倉県（福岡県東部）である。

その他の県の箪笥の生産状況を見ると石川県が3,000本代，新川（富山）島根・豊岡（兵庫北部）が2,000本代で，日本海沿岸の漆器生産県が多く，これらの諸県と1,000本代を生産する，岐阜・北条（岡山東部）宮城・愛媛・飾磨（兵庫西部）築摩（松本高山地方）長野・秋田・若松（福島西部）白川（熊本）小田（岡山西部）浜松（静岡西部）三重の諸県では，地場産業としての箪笥専業者が発生し，その他の35県では指物業としての兼業生産が主と見るのが妥当であろう。

また，当時の人口3,362万人で，箪笥年産数を割って見ると1万人当り23.6ケで耐用年数15年・平均家族数6人と仮定した。箪笥の普及率は約21％になる。

尚船箪笥に関係する記録としては大阪府の半蓋1,032本，1,212円があるだけで，その他は特に区分した記載はない。

表（1） 木材産出額

順位	府県名	年産額(円)	％	摘要
1	熊谷	145,793	6.2	埼玉北部群馬南部
2	新潟	134,206	5.7	佐渡を除く
3	水沢	129,074	5.5	岩手南部
4	愛知	124,720	5.3	
5	奈良	109,074	4.6	
6	滋賀	107,789	4.5	
7	新川	104,385	4.4	富山
8	栃木	103,190	4.4	栃木・群馬・東北部
9	岐阜	76,072	3.2	岐阜南部(美濃)
10	渡会	74,835	3.2	三重南部・和歌山東部
小計		1,109,138	47％	
全国		2,362,085	100	

☆ 卸売物価指数（朝日新聞・日本銀行）より推定すると，現在の物価は当時の約2,400倍に相当するので，木材の産出額は約56億7千万円になる。この計算で平均単価を取ると，建具712円，箪笥7,200円であり，実感としてはさらに10倍位が適当と思う。

表（2） 建具（戸・障子・襖類）産出額および数

順位	府県名	年産額(円) 金額	年産額(円) ％	数量(本) 金額	数量(本) ％	摘要
1	東京	60,689	12.6	148,423	9.5	
2	新潟	50,660	10.5	136,692	8.7	佐渡を除く
3	大阪	41,640	8.7	89,335	5.7	(襖桟塗代のみ)
4	京都	37,621	7.8	94,818	6.0	日本海側を除く
5	愛知	33,171	6.9	132,468	8.5	
6	石川	30,026	6.3	110,466	7.1	
7	熊谷	26,066	5.4	130,770	8.3	埼玉北部・群馬南部
8	和歌山	19,463	4.0	110,252	7.0	東部を除く
9	敦賀	13,694	2.9	45,955	2.9	福井県
10	広島	11,743	2.4	76,462	4.9	
小計		324,773	67.5	1,075,641	68.6	
全国		480,767	100	1,567,420	100	

☆ 卸売物価指数による建具産出額の推定は，約11億5,400万円になる。
☆ 滋賀・山形(酒田)・鳥取・岡山(小田)・山口・佐賀・鹿児島の7県は調査もれである。

表（3） 和家具生産額
＝長持・箪笥・鏡台・針箱・戸棚・卓飯台等＝

	府県名	年産額(円)	％	摘要
1	静岡	66,258	14.5	遠江・伊豆を除く
2	大阪	53,902	11.8	
3	東京	42,406	9.3	
4	愛知	23,320	5.1	
5	京都	22,710	5.0	日本海側を除く
6	熊谷	18,675	4.1	埼玉県北部・群馬県南部
7	新潟	17,703	3.9	佐渡を除く
8	広島	15,948	3.5	
9	敦賀	13,550	3.0	福井
10	埼玉	12,459	2.7	埼玉県南部
11	三潴	11,231	2.5	福岡県南部
小計		298,162	65.4	
全国		456,519	100	

☆ 卸売物価指数による和家具産出額の推定は，約11億円になる。
☆ 三重・和歌山(渡会)・滋賀・福島(盤前)・山形(酒田)・山口・佐賀の6県は調査もれである。

別表4　家具調度類の生産技術の進化

種別	技術の源	発展過程（主な製品）	技術特性	主材
① 蒿葭竹籐加工	士農内職	→蒿細工師・その他（円座・わらとん・むしろ）	よる・あむ	わら・麦わら
		→畳師・柳細工（たたみ・行李・弁当箱）	あむ	い草・柳
		→傘師・割竹細工（傘・篭・うちわ・すだれ）	割る・あむ・結ぶ	竹類
	（武具）	→弓師・矢師（京弓・薩摩弓・矢）	割る・貼る	真竹など
	（中国）	→丸竹細工（縁台・椅子・棚）	丸竹組	孟宗竹など
		→籐細工（籐表・うば車・椅子）	割る・あむ・曲げる	籐皮・丸籐
② 木材加工	佛師	→彫師→小物（置物・印・根付）	彫る	さくら・かば
		→大物（建築・らん間彫刻）	彫る	桧・けやき
		……→（うす・大鼓・桐火鉢）	くりぬく	桧・けやき・桐
	木地師	→挽物師→大物（建築・家具部品）	ひく	けやき・堅木
		→小物→（腕・皿・盆類）	ひく（塗下地）	けやき・とち
		→桧物師→板物（膳・折敷・重箱）	へぐ・折る	桧・杉・あて
		→曲輪物（盆・入物・弁当箱）	へぐ・曲げる	桧・杉・あて
	塗師			
	蒔桧師			
	指物師	→建具師 ⟶（戸・障子・まぶし）	桟を組む	杉・桧・もみ
		→大指物師→箪笥（箪笥・長持類）	板を組む	杉・桐・けやき
		→薄板物（鏡台・針箱類）	薄板を組む	堅木・桐・杉
		→小指物師→箱物（荷箱・一閑張）	釘付・貼る	杉・雑木
		→荒物（家庭雑貨・玩物）	各種加工	雑木類
	番匠師			
	大工	→樋師 ⟶（樽・手樋・風呂樋）	丸く組む	さわら・杉
	木挽職	……→各種小物専業（下駄・櫛・楽器）	専門技術	桐・つげなど
	船大工	……各種器材（船・車・駕篭・織機）	専門技術	各種材料
	（武具）	→鞘師・鞍造師（鞘・鞍など）	特殊技術	ほう・その他
	（中国）	→唐木細工（飾棚・篤盆・花台）	剱先組	紫檀・黒檀
	（欧米）	修理作業→木地屋→直材（洋家具）	洋組平	堅木類
		挽物師→曲木（洋家具）	型曲	なら・ぶな
		→合板（茶箱・洋家具）	むく・貼る	楢・ラワンなど
	（中国）	→塗装屋——（建築・洋家具）	刷毛塗	ラック・ラッカー
		→椅子張屋——（皿張・厚張）	張る	革・布
		…鞍造師		
		……建具・大指物→学校家具（机・椅子）	棒材を組む	杉・松
		→陳列器具（陳列ケース）	ガラス組込	杉・監木
		⟶展示（展示装飾）	展示技術	各種材料
③ 金属加工	鍛治師	→野鍛治→打金具師（くわ・箪笥金物）	打つ・焼付	和鉄
		→刃物師（包丁・かね）	打つ・とぐ	和鉄
		→刀鍛治		
	佛師	→鋳物師（鍋釜・劇場椅子）	砂型で鋳る	鋳鉛・真鍮
		→飾職（飾金具）	切る・打ぬく	真鍮・その他
	（欧米）	→板金加工（船舶・玩具・事務用家具）	切る・打つ・熔接	薄鋼板・ブリキ
		→パイプ丸棒加工（椅子・卓）	型曲	鉄パイプ・丸棒

注1　上記のほか，陶器・織物・プラスチック類がある

注2　…→　技術の関連を示す

⟶　職業の分化を示す

⇨　製品の流れを示す

● シティ・フォア・ジ・エイジド構想

——老齢化社会への一つの提案——

正会員　箕原　正

1. 考　察

- 人口構造のパターン（図1）
- 第二の生産人口
  （図2・図3・図4・図5）
- 産業
- 都市・住宅
- 地域社会の変ぼう
- 結論

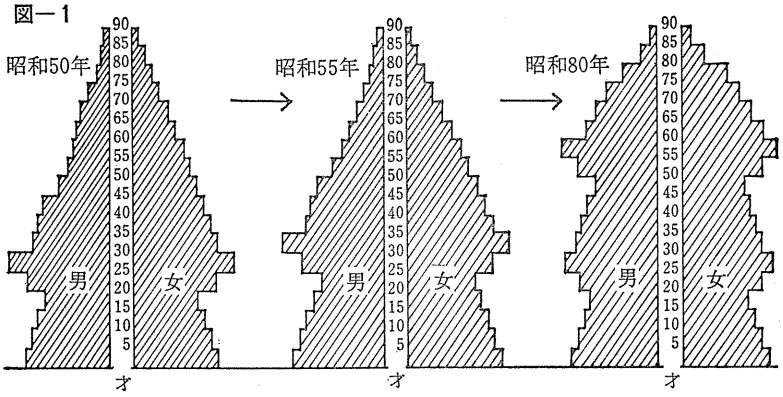
2. 展　開

- 都市の経営（図6）
- 街のイメージ

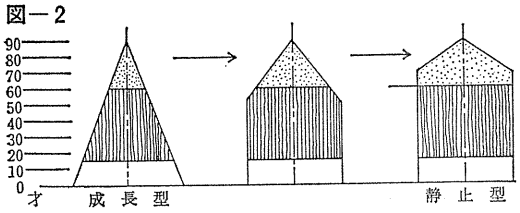
3. 計　画

- 用地選定（図7）
- 地方自治体を中心に（図8）
- ホーム・ケア・センターの設置
  （図7・図9）
- 将来的ビジョン

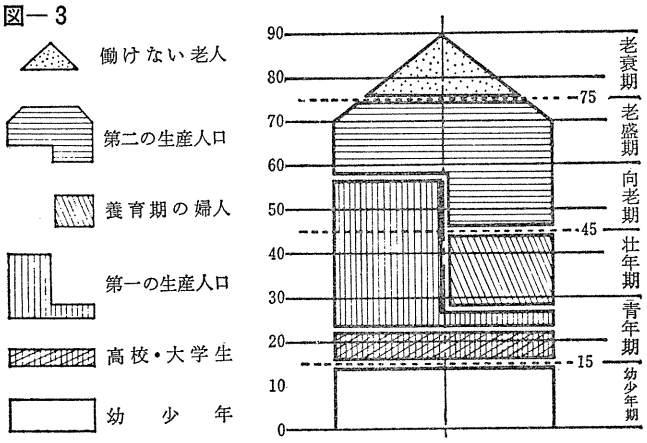
図—1



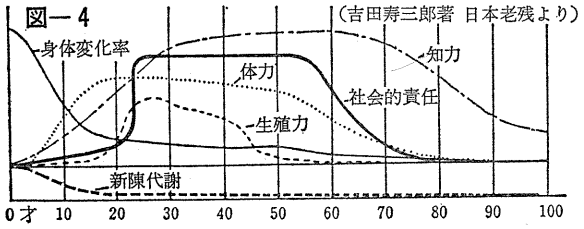
図—2



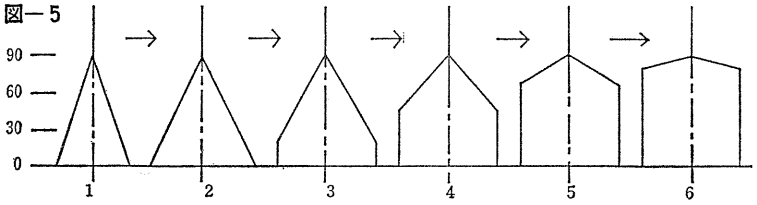
図—3



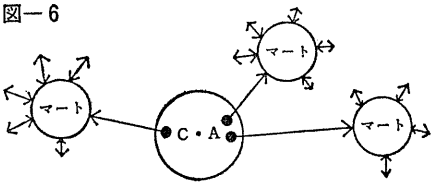
図—4



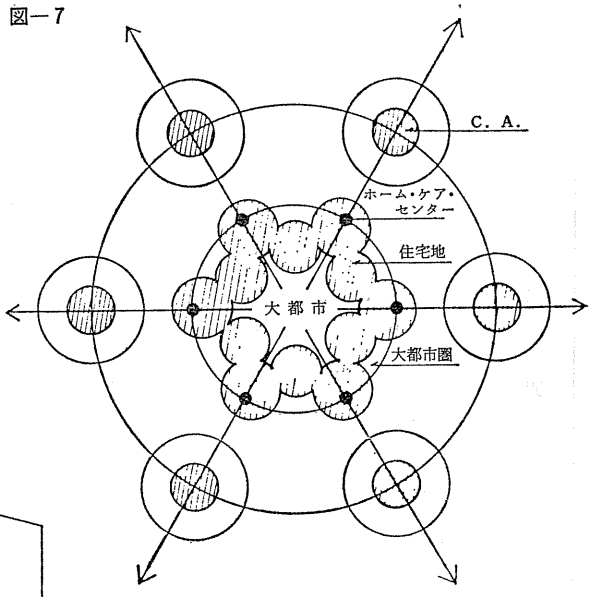
図—5



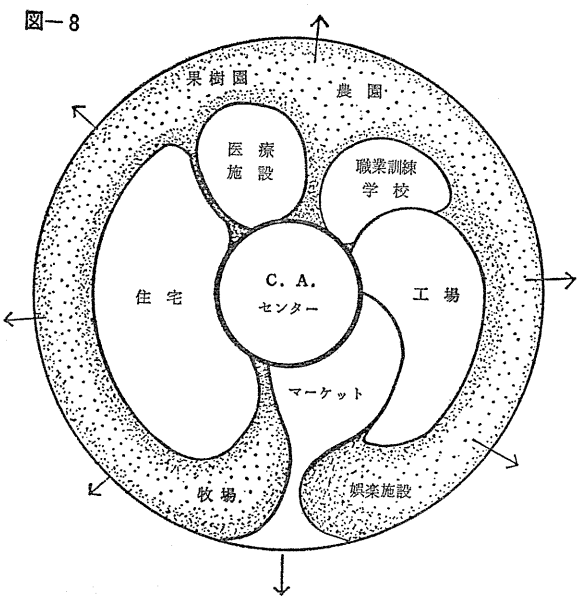
図—6



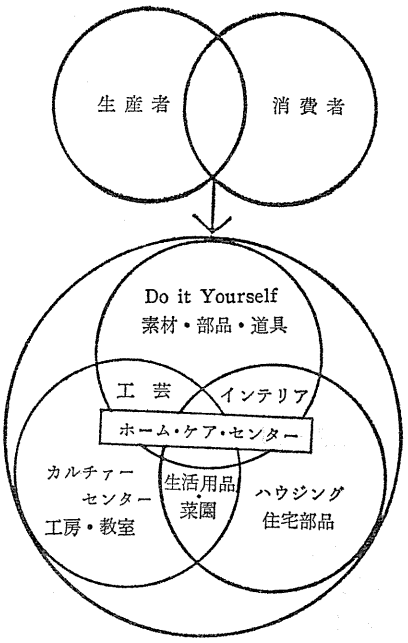
図—7



図－8



図－9



● 商業建築及びインテリア共同住宅他

——共同住宅及商業（含事務所）建築の建築とインテリアーについて——

正会員　中西三郎

この数年間にわたり，設計監理に関係した各種建築及インテリアーについてスライドにより，各種問題点を述べたい。

その資料として簡単乍ら右記列記する。

(1)　問題点

Ⓐ　日照問題と居住環境

Ⓑ　内外仕上材と色調の選定とモデルルーム

Ⓒ　防災上の諸問題を総ゆる角度から検討し，一方消防法規の改正に留意の要あり

(2)　問題点

Ⓐ　商業的角度より見た外観の諸問題

Ⓑ　商店のインテリアーについて

Ⓒ　賃貸事務所の重要ポイントについて

(1)　共同住宅の部

現場名称	所在地	構造	戸数	延面積
A 下馬マンション	世田ヶ谷区下馬一丁目	鉄筋コンクリート造 6F	18	1,158㎡
B 高砂ライオンズマンション	横浜市南区	鉄骨・鉄筋コンクリート造10F	93	6,535㎡
C 市ヶ尾マンション	横浜市緑区市ヶ尾	鉄骨造 10F	99	8,650㎡

最多タイプ住戸の専有面積

マンション名	住戸	バルコニー	計
A	㎡ 53.460	㎡ 5.189	㎡ 58.649
B	45.430	2.940	48.370
C	58.460	6.760	65.413

平均値　57.413 ㎡

(2)　商業（含事務所）建築の部

現場名称	所在地	構造	延面積	備考
A 江島屋ビル	銀座4丁目角	鉄骨造 B1 10F	678㎡	商店4 事務所6
B 愛知商事ビル	渋谷区四谷	鉄骨・鉄筋コンクリート造 B1 8F	1,892㎡	事務所
C 荒井第6ビル	新宿区歌舞伎町	鉄骨造 B1 9F	1,301㎡	商店2 事務所8
D 三信ビル	港区三田	鉄筋コンクリート造 5F	814㎡	事務所3 住居2
E 三河屋ビル	港区赤坂2丁目	鉄筋コンクリート造 B1 9F	763㎡	商店2，事務所4，住居3

● 中村順平氏のインテリア・デザイン業績

正会員　大泉博一郎

新に日本芸術院会員に選ばれた中村順平氏は今年89才，一生を建築芸術の教育に捧げて独自の道を拓いた建築家であるが，氏の創作業蹟として忘れてならぬものに，20隻にわたる客船のインテリア・デザインの連作がある。大正・昭和にわたる20年間のこの連作は一貫した主張に連ぬかれている。それは氏のいう“ネオ・ニッポン”即ち世界の文化国化に伍して恥かしからぬ日本の生活文化を確立し，伝統を生かして，我が国独自の現代建築を創造するということである。

氏が常に遺憾としているのは，日本の建築に堂々たる大コンポジションの伝統がないということである。私的な小規模なものには優雅な感覚をみせるにかゝわらず，国を代表するような公的建築となると世界のどの国よりも見劣りがすることにあった。船は動く国土といわれる。地球を廻る日本文化の使節として氏は船内デザインに現代日本精神をふきこむことに全力を投入した。

氏は日本の工芸についても，その技巧は卓絶したものであるが応用面が甚だ小さく，利底現代の公的生活に対応できるものではないとして，室内の家具，造作，壁面等にその技術を拡大する道を拓いた。この点については漆芸の現，人間国法松田権六氏と肝胆相照らし，協力して我が国工芸史に特筆すべき名作，旧岩崎邸，日本郵船新国丸，八幡丸等を完成した。

20隻にわたる船内デザインも，その一作一作に伝統に対する解釈の進展と現代生活への接近のたゆまない努力のあとが見られて，フランスにおけるアール・デコの時代，欧州の巨船時代に対応する日本のインテリア・デザインの進んだ道をスライドを用いてたどって見たいと思う。

● 豊口克平とデザイン界の半世紀展

名誉会員　豊口克平

表記の展覧会が'75年11月東京・小田急ハルク特設ギャラリーで「有志実行委員会」によって開催されましたが，ここに紹介いたします8㎜記録映画は豊口デザイン研究所の寿美田与市氏の撮影によるものです。

この内容は<研究発表>にふさわしいものかどうかという疑念もありますし，中心になった私としても甚だ気恥しいものがありますが，実行委員会の趣旨にもありますように「いまやデザイン界はひとつの転機にさしかかっていますが，この時にあたり，本展覧会によって半世紀の歩みを正しく評価する機会を得ることはデザイン界の関係者のみならず，暮しの側からも生活の秩序を見つめなおす機会として，真に意義深いことと思います」ということで何か皆さんの思考上の参考になればと思う次第です。

ただこれは豊口個人を中心にまとめられた展覧会だけに，プロダクトデザイン界の全貌を紹介するのには余りにも視界の狭いものになっている事をお断りしておかねばなりません。

しかし昭和初期から中期にかけての新デザイン運動の動きや第2次大戦前後のデザイナーの研究や行動は若い人達に殆ど知られておらず，可成り興味深く見られている事実を知って，私なりに満足感を感じています。

この内容は私の<思想形成時代><研究・実験時代><実践時代>と3つの流動50年に分けることができるように思います。

単に豊口個人の記録として見ないで下さるようお願いいたします。